

Libra | on

vol. 45

<http://www.libra-sc.jp>

りぶらいおん

特集：「困ったときには図書館へ」開催報告
2/19「図書館の未来」



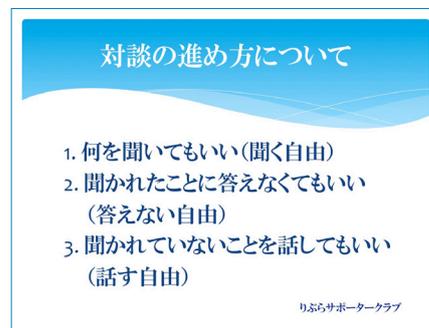
- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.40 『街道をゆくシリーズ 濃尾参州記』
- 「布絵本制作」紹介
- 「りぶらサポータークラブ」総会報告と今年度活動予定



「困ったときには図書館へ」開催報告

2/19 「図書館の未来」

2016.7.1
10th
ANNIVERSARY
OKAZAKI
岡崎市制施行100周年



「新世紀岡崎チャレンジ100」事業企画『困ったときには図書館へ』（全6回）講演会、最終回（2/19）の内容の一部を報告します。

水越 克彦 図書館長 岡崎中央図書館の現状と課題について

現状報告として、入館者数はりぶら全体から見ると、9割が図書館の利用者です。開館当初から徐々に減少していますが、27年度に少し持ち直しているのは、コンビニオープンの影響かと思われます。

また貸出者数では、旧図書館の倍の人に利用され、貸出冊数も入館者数・貸出者数に比例しています。県内の図書館（豊田・豊橋・一宮）と比較してみると、岡崎は資料購入費が少ないですが、中央図書館への入館者はダントツに多いことがわかります。また、貸出冊数・貸出者数はあまり差がありませんが、岡崎は中央図書館の利用に集中しています。

平成27年度に利用者アンケートを行いました。結果はHP（※1）に公開されていますが、現状の課題として、「貸出者数が減少傾向にある

こと」「若年層・10代から20代への対応」と、「いかに登録者数（登録が増えれば利用してもらえる）を増やしていくか」ということが挙げられます。

図書館に求められることが多様化している中で、静けさや資料の充実など、なかなか対応できないところもありますが、今後の図書館の課題として、以下の3点をに取り組んでいきたいと考えています。

- ① 滞在型の図書館（新聞・雑誌の充実）
- ② 課題解決型の図書館（困ったときに来てもらえるように、レファレンス対応の充実、テーマ展示などで身近な図書館へ）
- ③ 障がい者サービス



水越 克彦 図書館長 これまでの講演について

最初に両講師のお話がありまして、その後にテーマに沿った対談がありました。『仕事と図書館』については「OKa-Biz」との連携（テーマ展示）、データベースの活用セミナーの開催をして、より多くの活用を促しています。

『子育てと図書館』では、父親への子育て資料をどう提供していけばよいか、子育ての悩みをどうサ



ポートしていけばよいか、市役所全体で考えていきたいと考えます。現状は「ブックスタート」の絵本との関わりで、育児のサポートをしています。

「市民活動と図書館」については、まだまだ連携（情報共有）できていないのが現状で、お互いを知る場を作りたいと思います。

「病気と図書館」については、利用者の「知りたい」という想いに応え、「医療情報コーナー」のさらなる充実を図りたいと思います。

神代 浩氏

これまでの講演について

先ほど、館長からデータを基にした現状報告がありましたが、現状を共有した上で、さらによくしていくにはどうしたらいいのか、データに表れていないところをどうするのかを一緒に考えていきたいと思います。

この講演会の準備をしているときから、この図書館をどうしたらいいかということ、1年考えてきました。図書館は何ができるのか、皆さんの生活や人生にとって図書館とはどういう位置づけなのか、皆さんなりの答を持って、その答を実現する行動につながればいいなあと思います。

各講師との対談は、「図書館がパパ向けにできることはないのか」「がん患者に対して、食事やおしゃ



れや仕事への復帰など、生活に関わる情報が医療情報コーナーにあるのか」などを深く考える機会になり、大変刺激になりました。

そして、利用者の皆さんにとっての図書館がタダで本が読めるだけの場所ではなく、困難にぶつかったときに役に立つ施設にするためにどう改善すればよいか、ということを考えていただくキッカケになればと臨んできました。「1年かけてこの講演会をやったおかげでこう変わった」という取り組みを、当事者の皆さんから具体的に聞かせていただきたいと思います。

岡本 真氏

これまでの講演について

「りぶら」は、図書館を核にした複合施設としては先駆的な存在です。まもなく開館10年を迎える現在も活発に利用され、費用対効果を上げています。また、100周年事業にみる文化度の高さ、市民活動の活発性、当事者意識のある利用者が多いことなど、素晴らしいソフトを持っています。

「OKa-Biz」の秋本さんと「まち育てセンター・りた」の三矢さんは、岡崎の財産です。りぶらを盛り上げる二つの機能には、たいへん価値があります。しかし、図書館との関わりは薄いのが現状。人口減と高齢化で図書館の入館者数が減るのが当たり前ですが、岡崎市の人口は減ってないし、「OKa-Biz」



や市民活動団体も増えているのに、図書館の利用者は減っているのはなぜか、ということを考えていただきたい。

図書館が複合施設としての利点に切り込んでいない、ということももったいないのです。市民が行政と連携をして管理運営をしているという現状は、もっと結果が出せるはずで、図書館はもっと、他の部署と接点を持つべきです。また、建物の立派さよりも公民の連携が大事だということ、市民ももっと意識した方がいいですね。

そして、図書館は今年度の100周年事業にどう関わったのか。「こんな本がありますよ」という市民団体への図書館の売り込みをアピールできたのか。ブックトラックなどを利用してできることがあります。アピール次第で、利用者を増やすことができます。

しかし、ただ利用者が増えればいいという話ではなく、市民を育て涵養するのが図書館の役割だと思うからです。何をするにしても、情報や知恵や知識を学んで活用する場が必要です。活動をしながら図書館を利用することで、その方がより賢い判断ができるのです。図書館はそのアーカイブとして、知識をきちんと身につけた市民を育てることができるのです。

こうして1年かけてやってきた以上、結果を出しましょう。いい思い出作りだけではもったいない。もうひとがんばりです。しかし、館長一人でやるということであり

ません。一緒にやろうというお互いの合意が必要です。

質疑応答

質問：選書の方法や判断基準はどうなっていますか？10～20代向けの本が少ないように思います。

水越：色々な分野で基本的な図書を収集するという選定要項（※1）があります。担当者が選書会議を開き、利用者からのリクエストや業者からの新刊案内などを参考に選んでいます。厳しい予算なので、ベストセラーなどは上限を決めていますし、児童書は児童書の担当者がいます。

戸松：市民活動団体や個人として、活動に関係する資料について、図書館側から声をかけられたことはないですね。

水越：ご意見箱を利用していただければ、選書の参考にさせていただきます。聞く場を持つことはいいことだと思います。

岡本：大概の図書館は収集方針を明文化しています。岡崎も明記されています。「この街においてこの図書館にふさわしい資料は何か」、「誰の意見を入れるのか」ということで、市民の意見を入れるというのは難しいことです。偏ると図書館の使命を果たせません。そのため司書がいるのですから。

しかし、市民が選んだブックリストを図書館に提案するということができます。寄贈してもらえらば、図書館にとっては現金がありがたいが、図書館が受入可能な本と一緒に選んで、現物を寄付するということができます。市民活

動として、現実的に声（物）を届けるということです。

神代：リクエストできるということが周知されていないのではないかと思います。予算ありきではなく、予算を増やすための具体的な計画（何のためにどのような資料を収集するか）も必要です。図書館の可能性をもっと働きかけることによって、予算が増える可能性もあります。

質問：図書館に来られる特定の人だけが図書館を使っていることが、課題ではないかと思います。図書館を使っていない市民の80%の人たちに、図書館はどうアプローチするのか。建物を出ないと広がらないのではないかと。他市の図書館を参考に、図書館からアプローチしてほしいと思います。

岡本：自治体の総合計画を読むと、その自治体の方向性がよくわかります。図書館員である前に市職員であることを自覚して、レファレンス能力を発揮して、他の部署の担当者と連携することが必要です。

神代：市のイベントや図書館の中のコーナーでも、なぜ今そのイベントをやるのかを考えることが必要です。例えば、新聞の地方版をネタに、岡崎市なりの一工夫をしてほしいと思います。参考として配付した鳥取県立図書館の資料（※2）は、意識すればどの図書館でも作れるものです。そういうアプローチをすることで、市民に身近な図書館になっていきます。

水越：図書館員はレファレンスなどの受け身な仕事は得意ですが、外に仕事を見つける経験がありません。具体的にどう進めて

いくかが課題になりますが、せめて市役所の中で図書館のアピールをし、職員の図書館利用を進めていきたいと思います。まずは、本庁と図書館の距離感を縮めていきたいですね。

質問：豊田市の図書館が指定管理になるということですが。

水越：サービス面での変化に注目しています。県内では指定管理への移行も増えていますが、岡崎では直営を維持していく方針です。

岡本：指定管理で問題になっていることは、全て自治体の責任です。安すぎる委託費が問題です。安くなるからという理由での指定管理委託では、目先の問題解決にしかありません。行政がそういう理由で指定管理に移行するとしたら、そういう行政にしている市民の問題でもあります。普段からすぐに職員をたたいているような市民がいる自治体は、行政機能がどんどん劣化します。「世の中で言われていることは本当か？」ということを検証するために、市民は大いに図書館を図書館を利用してください。

蒲郡・津島・指宿・多治見など、指定管理で素晴らしい図書館もあります。単純な指定管理反対ではなく、きちんと検証してください。

質問：障がい者サービスの現状と、障がい者対応の職員教育について伺いたい。

水越：図書館概要には、詳しく掲載されていません。郵送サービスもまだまだ周知されていないのが現状です。専門家による職員への研修会を行っています。市民活動団体の協力も得たいと思っています。

まとめ

神代：まとめとして「行政サービスの分類」についてお話しします。

直接的なサービスばかり要求すると、行政は破綻します。間接的サービスも積極的に利用され、4つの分野がバランスよく提供されているのが理想的です。

	直接的	間接的
現金	生活保護 児童手当 奨学金など	税制優遇 (減税・税控除)
サービス	医療 介護 保育 学校教育 職業訓練など	社会教育 文化・図書館 スポーツ

岡本：民間事業者としては、図書館くらいは自前で整備してくださいと言いたいですね。図書館は、最低限備えられていなければならない施設です。そして、みんなで維持するという意識共有が必要です。

これまで「市民協働」といわれてきましたが、これからは「市民自治」

です。行政に任せないで、自分たちでできることは自分たちでやる。パブリックというのは、市民が公を担うということです。一方的に行政に要求することをやめ、もっとうちのやり方があるだろう、ということ提言していく方向です。

また、市民活動はプロセスを大事にしすぎています。結果の出ない自己満足ではいけない。我々も真剣にこの場に臨んできました。もっと高みを目指して、きちんと結果を出して、「りぶら」としての変化を見せてほしいと思います。

神代：「結果が出るまで待とう、ホトギス」ですね。

戸松：企画の立ち上げから、約2年に渡った講演会を無事終了することができました。講師の皆様、参加者の皆様、図書館の皆様、ありがとうございました。

(※1) 図書館のHPの「図書館の活動」のページから閲覧できます。
http://www.library.okazaki.aichi.jp/?page_id=230

連続講演会を終えて(戸松)

図書館資料の活用を含め、「りぶら」が市民生活の向上に役立つ施設であることを周知し、市民が図書館とのつながりを持ちやすいテーマで図書館利用の提案ができればと考えた企画でした。しかし、周知や動員・図書館職員とのコミュニケーションなど、企画段階からの課題が解決されないままとなり、担当者としての力不足を認めません。

全講座を終え、再び大変重たい課題をいただきました。「図書館が役に立つ施設だということをいかに周知するか」、「図書館が街に出やすくなるにはどのようなサポートが必要か」など、あらためて取り組んでいきたいと思っています。

今回の企画で、たくさんの学びの機会を得ることができました。その学びを「図書館の未来」「りぶらの未来」につなげていきたいと思っています。



(※2) 鳥取県立図書館の資料

鳥取県立図書館 資料種別マップ

～はじめ～

【関連する書籍】 マップ番号 種別番号

種別	書名	出版社	定価
1	いじめの根をたたく	山下完三 / 講談社	2014.9
2	いじめとは何か	鳥取県立図書館 / 中央公論新社	2016.7
3	いじめをやめよう	鳥取県立図書館 / 中央公論新社	2016.9
4	いじめをなくす	鳥取県立図書館 / 中央公論新社	2016.9
5	いじめをなくす	鳥取県立図書館 / 中央公論新社	2016.9

お問い合わせ先：鳥取県立図書館 〒690-0017 鳥取市南町 181
電話：0857-26-8335 FAX：0857-22-2096
E-mail: tsushiku@pref.tottori.jp

【関連図書及び解説】

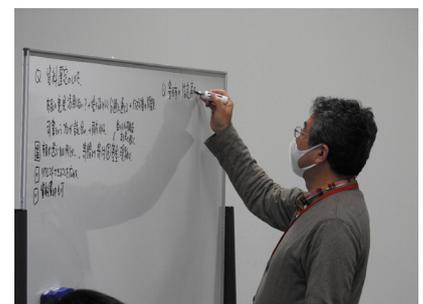
マップ番号	種別番号	種別	種別番号	種別	定価
1	101	児童書	101	児童書	2014.9
2	102	児童書	102	児童書	2014.9
3	103	児童書	103	児童書	2014.9
4	104	児童書	104	児童書	2014.9
5	105	児童書	105	児童書	2014.9

【鳥取県立図書館】

○鳥取県立図書館 蔵書検索
住所：鳥取市南町北2-201
電話：0857-26-8335 (代線)
0857-26-8318 (おにぎり110線)

○鳥取県立図書館 蔵書検索
住所：鳥取市南町北2-201
電話：0857-26-8335 (代線)
0857-26-8318 (おにぎり110線)

○鳥取県立図書館 蔵書検索
住所：鳥取市南町北2-201
電話：0857-26-8335 (代線)
0857-26-8318 (おにぎり110線)



りぶら中央図書館情報

図書館の利用マナー向上にご協力ください

図書館は静かにご利用ください

話し声、靴音、イヤホンやヘッドホンからの音漏れなどは、他の利用者の迷惑となります。



館内は飲食禁止です

資料の汚損を防ぐため禁止しています。
(蓋付の容器での水分補給のみ可)



閲覧席の利用について

荷物での席取り、スマートフォンや携帯ゲーム機の使用、居眠りなどはご遠慮ください。また、手荷物の管理は自己責任でお願いします。



資料を大切に

本は水に非常に弱いため、雨天時はビニール袋に入れるなど濡らさないようご注意ください。また汚損・破損している資料を見つけた場合は職員までお知らせください。

担当：中央図書館総務係（電話 23-3103）

中央図書館 1階レファレンスカウンター「レファレンス事例集」

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、三武将それぞれの性格を詠んだとされる句のうち、家康の忍耐強さを表すとして知られる句についての事例をご紹介します。



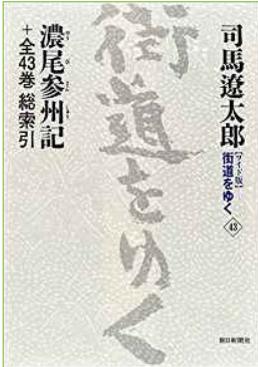
質問	「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス」の句の出典は何か？
回答	<p>【資料1】 p.128の「なく」の項目の中に「なかぬなら鳴(な)くまで=待(ま)とう [=待(ま)つよ] 時鳥(ほととぎす)」の項目あり。出典は「随筆・甲子夜話〔1821～41〕五三」とあり。</p> <p>【資料2】 p.863に「鳴くまで待とう時鳥」の項目あり。意味、解説あり。出典は『甲子夜話』とあり。</p> <p>【資料3】 p.136に『甲子夜話』を出典とする旨記載あり。</p> <p>【資料4】 p.57-58に以下の記載あり。</p> <p>夜話のとき或人の云けるは、人の仮托に出る者ならんが、其人の情実に能く協へりとなん。 郭公を贈り参せし人あり。されども鳴かざりければ、</p> <p>なかぬなら殺してしまへ時鳥 織田右府 鳴かずともなかして見せふ杜鵑 豊太閤 なかぬなら鳴まで待よ郭公 大権現様</p>
キーワード	「徳川家康」「名言」「名句」
参考資料	<p>【資料1】『日本国語大事典 第10巻』小学館国語辞典編集部/小学館/2010年/参考 813.1 二 10</p> <p>【資料2】『成語大辞苑』主婦と生活社/1995年/参考 813.4 七</p> <p>【資料3】『歴史を動かした日本語 100』島内 景二/河出書房新社/2003年/210.0 レ</p> <p>【資料4】『甲子夜話 4』松浦静山/平凡社/1978年/家康 049 力</p>



私の一冊 vol.40

「街道をゆくシリーズ 濃尾参州記」

司馬 遼太郎：著 朝日新聞社



鈴木 庸三

(すずき ようぞう)

図書館総務係。りぶらに来て7年目を向かえました。りぶらでの活発な活動や、生き生きと利用されている皆様に刺激を受けている毎日です。

『街道をゆくシリーズ』の『濃尾参州記』を久しぶりに読みました。晩年、司馬遼太郎は、力業を要する小説を書かず、専らエッセイを書くことを主な活動としておりました。小説はあまり読んだことがなかったのですが、晩年のエッセイが好きで、『街道をゆくシリーズ』を当時全巻購入して読みました。

このシリーズでは、綿密に取材したことの紹介が続き、歴史上のスポットや風光明媚なところの紹介があまり出てきません。雑誌に連載されていましたが、東海地方を一度も書かず、『濃尾参州記』が初めての紀行でした。連載中の『家康の本質』の途中で逝去されたため、未完に終わっています。

『家康の本質』では、「三河一向一揆は、あとでくわしく述べるかもしれないから、ここでは詳述しない」としておられます。司馬氏が、三河や家康について何を語りたかったのか知りたい、という渴望から戦国

時代の歴史小説やエッセイを読んでいたような気がします。

『濃尾参州記』の取材中に、作家・宮城谷昌光氏と初めて会食したと書かれていたことから、『濃尾参州記』を読んだ後、宮城谷昌光氏の戦国時代の歴史小説やエッセイをよく読みました。司馬氏の絶筆『家康の本質』に書かれたであろうことを探し、『街道をゆくシリーズ』を完結したかった気がします。

三方ヶ原の戦いで、信玄は城攻めの労を避け、野戦をえらんだ。信玄は家康に、「敢為（かんい）——あえて為す——」という精神があることを見ぬき、わざと城外で陣を張ってみせたという一節を読了後、改めて1Fレファレンスライブラリーの家康文庫にある、苦虫をかみしめたしかみ像を見ました。あえて挑発に乗る勇気と、露骨な臆病とのあいだの振幅の大きさが家康のおかしさ。これも三河人のアンソロジーと思いました。

りぶらサポータークラブから、図書館に「布絵本」を寄贈しました

一昨年前の12月から活動している図書館サポートの「布絵本制作」は、毎月第2・4木曜日（祭日はお休み）の13:30～17:00に、活動コーナーにて開催しています。活動会員（8名）はこれまでに12冊を制作し、3月30日に図書館に贈呈することができました。

また、イベント等で使用する「りぶらいおん帽子」の製作にもご協力いただき、今年の「ハッピーハロウィンりぶら」と「りぶらまつり」で運営委員が着用しました。

今年度は、引き続き布絵本を制作する傍ら、傷みの目立つ活動コーナーのイスの背もたれカバー作成も予定しています。活動に興味のある方は、活動日当日に見学にいらしてください。





りぶらサポータークラブ 総会開催報告

5月13日の午前10:00から、平成29年度の総会が会議室302において開催され、全ての議案が承認されました。今年度は、2回目の「ハロウィンイベント」が夜の部も開催予定となりました。「りぶらまつり」と合わせて、それぞれに運営に関わる実行委員を募集していますので、事務局にお問い合わせください。

また、りぶらのサポーターと一緒に活動できる仲間と賛助も募集しています。参加者としても「一緒にりぶらに行こまい!!」と声をかけてください！詳細は、随時ホームページなどでお知らせします。月・火・木・金の午後は、活動コーナーに事務局員がおりますので、気軽に

お声がけください。

今年度は役員の交代があり、役員・運営委員は、以下の態勢で活動を進めて参ります。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

代表	杉浦 仁美
副代表	前川 正博
副代表	山田美代子
事務局長	小竹 央朗
運営委員	石尾 秀子
運営委員	内田のり子
運営委員	出家 和子
運営委員	戸松 恵美
運営委員	羽田 智子
運営委員	細井 由起
顧問	三矢 勝司
監査	内田 明



平成29年度のメインイベントのご案内

第9回 りぶらまつり 2017

開催日：11/11(土)・12(日)
第1回実行委員会：7/29(土)
13:30～ りぶらホール

ハッピーハロウィンりぶら

開催日：10月29日(日)
昼の部：東駐車場
夜の部：りぶらホール

冬のコンサート

開催日：12/16(土)
場所：お堀通り

外国人が日本の歌を歌うのど自慢大会 vol.8

開催日：2/4(日)13:00～ りぶらホール
説明会：1/28(日)13:30～ 101

シネマ・ド・りぶら

開催日：4/20、5/24、6/22、8/24、
9/21、10/19、12/21、1/18、2/15
木曜日：① 10:30～② 14:00～
③ 18:30～(6/22・8/24のみ)
上映作品についてはチラシ等でご確認ください。

りぶら講座

前期(4月～7月)・中期(8月～11月)
後期(12月～3月)

※予定は変更になる場合があります。

Libra l on vol.45 2017/6/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 携帯電話：070-5252-7263
lsc-office@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp 事務局：月・火・木・金：13:30～16:30

そうだ！りぶらをサポートしよう！
(1)活動サポーター(登録のみ)
(2)賛助サポーター(年会費)2,000円
随時、ご寄付も受け付けています。